

## 信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー

### ●信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーの額

(単位：百万円)

区分	連結	
	2017年度中間期	2018年度中間期
ルックスルー方式	86,057	150,701
修正単純過半数方式	42,283	66,446
マンドート方式	3,554	5,552
簡便方式（リスク・ウェイト400%）	-	-
簡便方式（リスク・ウェイト1,250%）	731	2,243
合計	132,627	224,944

区分	単体	
	2017年度中間期	2018年度中間期
ルックスルー方式	86,057	150,701
修正単純過半数方式	42,283	66,446
マンドート方式	3,553	5,551
簡便方式（リスク・ウェイト400%）	-	-
簡便方式（リスク・ウェイト1,250%）	731	2,243
合計	132,626	224,943

- (注) 1. ルックスルー方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる個々の資産の信用リスク・アセットを算出し足し上げる方式であります。  
 2. 修正単純過半数方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる資産の総額の過半数を占める株式等エクスポージャーに対応するリスク・ウェイトを適用する方式であります。  
 3. マンドート方式とは、ファンドの運用基準に基づき最も信用リスク・アセットが大きくなる資産構成を想定し、個々の資産の信用リスク・アセットを足し上げる方式であります。  
 4. 簡便方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる資産のリスク・ウェイトの加重平均が400%を下回る蓋然性が高い場合は400%のリスク・ウェイトを適用し、それ以外の場合は1,250%のリスク・ウェイトを適用する方式であります。

## 金利リスク

### ●金利リスクに関して内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額

金利リスクに関しては、連結貸借対照表における総資産の大部分を銀行が占めることから銀行単体にて月次で計測し、管理しております。

また、円貨流動性預金の金利リスクについては、コア預金内部モデルでの計測結果を使用して算出、期限前返済については、一部の債券を除いて、期限前返済（解約）はないものとして計測しております。

(単位：百万円)

	2017年度中間期	2018年度中間期
VaR	13,397	22,495

(注) 算定手法は、信頼係数：99%、保有期間：6か月、シミュレーション法：ヒストリカル・シミュレーション法であります。

(単位：百万円)

	2017年度中間期	2018年度中間期
アウトライヤー基準に基づく標準的金利ショックによって計算される経済的価値の増減額	28,969	26,143
アウトライヤー比率	7.4%	6.8%

(注) 金利ショックは、円貨、外貨ともに99パーセンタイル値と1パーセンタイル値であります。